



岡村病院
院内報

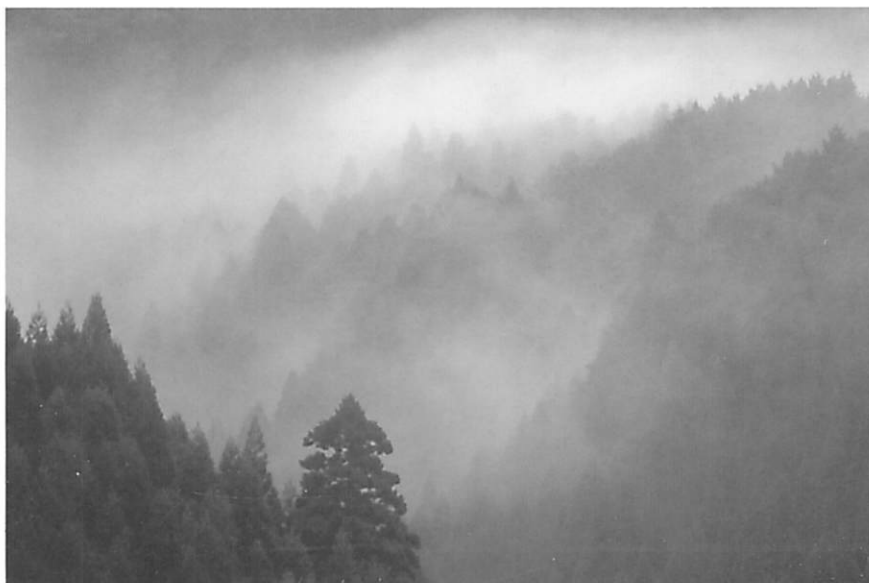
歩 (あゆみ)

第 34 号

発行 岡村病院
編集 歩 (あゆみ)
編集委員会
平成11年6月10日

岡村病院 基本理念

私たちは、患者さん本位を第一に考え
高度な専門医療技術をもって
地域社会に貢献することを目指します。



「山霧」

小谷了一先生 写

今月のことば

一人ひとりが病院の顔

入院されていた患者さんが退院される時、アンケートを書いて頂いておりますが、入院中の印象として多くの方が、医師、看護婦その他、担当の職員が皆やさしく、うれしかったとか、病気や薬の事について詳しく説明してくれて、よく分かったとか書いて下さっています。しかし少数ですが、相当きびしいご意見を書いて下さっている方もあります。大切なのは、そういう言いにくい事を率直に言って下さる少数の方のご意見です。謙虚に誠意をもって聞かなければならないと思います。

職員一人ひとりが病院の責任と信用を背負って患者さんに対応しているのだという事を忘れないで、どなたに対しても誠実に応対いたしましょう。

一人ひとりが病院の顔です。

ほんの小旅行



高松内科クリニック院長 高松和永

旅行の楽しみは、誰にも知られずに、ゆっくりと自分の時間を過ごすことが出来ることです。ところが、私共のように、一人で開業していると、なかなか旅行などは出来ません。そこでという訳でもないのですが、休日の朝、自転車に乗って少し遠出をするということが趣味の一つとなっております。いろいろなコースがあります。久万川を下って、葛島橋から、国分川を上るコース、舟入川を上るコース、そのまま五台山の周辺まで行くコース、鏡川を下って港まで行き、ぐるっと回ってくるコースなどですが、今回は、初夏の趣きが満ちあふれています鏡川を早朝に月の瀬橋より、上流に向かって自転車を走らせた5月16日、日曜日のほんの小旅行について書いてみます。

朝6時、月の瀬橋に着きますと、橋の下より元気な掛け声が聞こえてまいります。15人程の方が日の丸の旗を中心にラジオ体操をしておりました。月の瀬橋の南岸を川に沿って上っていきますと、花を付けたせんだんの並木道がみられます。せんだんの花は、別名雲見草とも呼ばれているようです。青空を背景に大きな木に咲いております薄紫の花をみておりますと、まさに雲見草の名が判るような気がいたします。やがて、左手に石立八幡宮の杜がみえてまいりま



す。冬にみるのと比べますと全体に盛り上がった感じがいたします。

さらに上流へと上って行きます。兩岸の河原が広くなり、緑の風景が大きくなります。河原では、犬を連れて散歩をする人がたくさんみられ、ベンチに腰掛け新聞を読んでいる人、自転車に乗って散策をしている人など多くの人達に出会います。堰がいくつかみられ、水はゆったりと流れています。また、堰を越えて流れる水音もとても気持ちを和ませます。紅葉橋を過ぎて、すぐに大きな立派なせんだんの木があり、葉も見えないほど花が咲き誇っていました。私が写真を撮っておりますと、この木の花を見にこられた方がおいでになりました。名物の木なのでしょうか。

鏡川大橋を越えて、さらに上流へ上って行きますと、街の中を流れている今までの鏡川とは全く異なったのどかな清流といってよいような鏡川になってきます。ところどころに農業用水用の堰があり、堰を越えて落ちる水の音、深い緑の山からは、よくよく聴いていますと、鶯の声も聞えてきます。そうこうしているうちに、岩が淵、宗安寺に着きます。宗安寺周辺は、本当に静かで、鳥の声だけが響いております。この辺りでは、犬を散歩させたり、ジョギングをしている人達によく出会いました。

鏡村へ入り、大河内橋から眺める鏡川は、山の緑を川面に映し、水は澄み、川を泳ぐ鮎を橋の上から見る事が出来るほどです。本当に気持ちの良い風景です。時間も過ぎてきましたので、この橋より、鏡川の北岸を鳥越、塚の原を通って、家へ帰りました。自転車で約1時間30分位のほんの小さな旅ですが、現実の憂さを忘れ心が洗われるような気がします。

「病棟と訓練室の ギャップ」

理学療法士

吉田 哲也



私が岡村病院に来てお世話になり始めまだ2ヶ月程ですが、今回はこの少ない岡村病院での生活で私が気になった事の一つを書きたいと思います。

つい先日、私が病棟を歩いていると、ある患者さん、この方はリハビリを行っているのですが、訓練室で歩く時は、片手に杖を持ち、もう一方の手は私の手を握り歩いています。その患者さんが、一人で杖をつき歩いておられたのです。私は転倒しないかなと心配しながらも、けっこう上手に歩いているなど感心して見ていました。

こんな事は別にめずらしい事ではなく、患者さんは訓練室と病室とで全く別人になっている時があります。訓練室では一人で坐ったり歩いたりしている方が、病室では全く動こうとはし

なかったり、逆に訓練中はすぐに疲労感や痛みを訴えて休息を望む患者さんが、病棟では平気で歩いている事もあります。同様の事は、よく看護婦さんからも指摘があり、「〇〇さんは病室では全く動きません」という意見を聞く時がよくあります。

リハビリテーションの目的の一つとして、身体機能の回復とそれに伴う日常生活動作の向上を考え訓練を行います。しかし、実際には病棟での日常と訓練室とでは、予想以上のギャップが存在し、それが理学療法の大きな弱点でもある様に思われます。患者さんにとって病棟は生活・休息の場であり、決して訓練の場ではないかもしれません。しかし、退院後の生活を考えると、病棟こそ本来もっともふさわしい訓練の場だと思われます。このふさわしい訓練の場をいかに上手に生かし、生活と訓練のギャップをなくすかを考えると、私自身の努力はもちろん、患者さん自身やご家族の方々、医師をはじめとする、看護婦さん、ヘルパーさん、看護学生さんの協力が必要不可欠だと思います。その協体制の確立により、病棟とリハビリテーションの距離が縮まれば、患者さんにとってもより充実した入院生活が送れるのではないのでしょうか。

新型超音波装置の設置

医療に於ける画像診断の進歩は目覚ましく、中でも簡便で、痛みを伴わず、放射線の危険がない、超音波による検査は重要な方法として確立しております。

近年、装置の進歩により一層の正確な診断と治療が可能となりつつあります。この為、従来の装置に代わり、本年4月より新型の超音波装置を購入致しました。

購入しました装置は画像の全てをデジタル化処理する事により、従来の機種に比し、より高品質、高感度の画像が得られる事が特徴です。又カラー表示により以前では明瞭に描出が困難であった、心臓、肝臓、血管、甲状腺、乳腺等の詳細な画像が得られる様になりました。

今後はこの装置を活用してより正確な診断、治療を行い、皆様のご期待に添えるよう努力して行きたいと考えております。



お四国巡りを夢みつつ



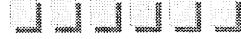
5 F 片岡楠居

私は平成11年3月28日より当院に入院し高血圧症・気管支喘息・心臓病で治療を受けています。大変良くなって4月25日に退院してよいという院長先生の許可が出て嬉しくて荷物の整理もして25日を待っていました所が、血糖が高いから退院が延期だといわれショックでした。先生から此の病気は食事療養が一番大事だ、食事と運動を実行すれば完全に良くなると言って戴きました。早速ジョギング用靴も買いジョギングを始めました。朝食後8時半頃から1時間半、夕食後1時間半、毎日3時間歩いています。食べる物も給食以外間食は絶対しない。始め頃、空腹で歩いていると胃の当りが痛み果物屋の前に止まってバナナを買って食べようと何度か足を止めましたが辛抱だ堪え凌ぐことが大事な今、これを守れなかったら病気に負けると我慢し、久万川の土手を3日位泣きながら歩きました。安楽寺、薫の様、小津神社に参拝して久万川土手、高知城、鏡川当りを歩いています。町の名前もぼつぼつ覚えて楽しく歩いています。道に迷ってタクシーで帰ったこともありました。物ごとは考えよう次第で、寝たきりのままで動かない方も沢山いられるようです。その方達からみれば自分は幸福だと思います。私はお四国巡りを11回廻りました。今年も行く予定だったが病気のために中止しました。来年は元気になってお四国巡りが出来るようにと念願し治療を受けています。

岡村病院は環境もいいし、掃除のゆき届いた清潔な病院。院長先生はじめ看護婦さん、職員の方々が親切なのに感謝致します。1日も早く血糖が下がり良くなって退院出来る日を待っております。

白衣姿に金剛杖、鈴を鳴らして春の遍路道に行く、喜寿を迎えた私、背中に煩惱背負って、この重荷は浄土へ行くまで背負って行かねばならない定めなのかも知れないけれど、誰にも代ってはおもらえない。唯お大師様におすがりして、一心に御宝号を唱えつつ。(77才女)

入院は反省の機会でした



高知市 豊浦照子

30年余り健康で働かせて頂いて初めての入院生活が岡村病院でした。

病院は陰気な所だと先入観を持っていた私は岡村病院の明るくて清潔な感じが先ず気に入りました。

そして看護婦さんのやさしさ親切さに頭が下がりました。人に尽す事の素晴らしさを見せて頂きました。私もお客様に接する仕事ですが、この方達様に明るくやさしくサービスが出来ていたかしらと考えてみたら、恥かしさでいっぱいです。ばたばたと忙しく過ごしていると自分をかえりみる事もなく毎日が過ぎてゆきます。

入院は私にとって心身共に反省の機会でした。お部屋のお友達にも恵まれ心の中をさらけ出したの相談にもものって頂き、10年の知己を得た様な楽しさでした。

人生って思いがけない所で思いがけない出会いがあるものですね。たまには病気もするものだなあーと感激したり感謝したりしながら退院させていただきました。

俳句ポスト

水田雅吉子

武家井戸の深さは知らず著莪の花 青木静枝

高知在住の外国の方の尽力で武家屋敷が復元され、先頃ニュースになりました。大川筋と但し書きがありますから、おそらくこれを詠まれたものでしょう。古井戸の冷気と底知れぬ暗さを思う時、忌み事として封印されてしまった様々な血生臭いでき事など想像されます。著莪の花の印象が、侘びしく余情として残ります。

白き風花からたちの匂ふ道 窪田敏子

からたちの木には5cmほどの棘がたくさんあり、ドロボー除けによく生け垣に植えられています。初夏の、ともしれば陽炎うような日盛り

の様子が御句から伺えます。道も人も、からたちもふっと消えてしまいそうで不思議な句です。

落むきし灰汁染む指のまま眠る 八木 敬

落や筈など、味付けの手前までの手間が結構面倒なものです。落の皮むきは爪や指先が真っ黒になって困りものですし……。今は生活も随分便利になりましたが、昔の主婦は本当に働き者だったと思います。早朝から夜更けまで家事に精出していた母を思い出します。

待ち人の手が上がりけり風光る 秋山武子

だんだん強くなった日差しが木々の葉や窓などを照らしまぶしく感じられるのですが、風が光る…ととらえた先人達の詩心に感服いたします。遠くに上がる白い手の動きが、いっそう季節感を際立たせています。

フラフ立ち子の名大きく書かれをり 高松和永

今年は残念ながらお目にかかれませんでした。フラフには金太郎や、桃太郎、天龍など、一枚一枚に親御さんのこだわりが見え、見事な職人の技と相まって見ごたえがあります。力強く気持の良い御句です。

悟る事ありや禅寺花菖蒲 島野和枝

先日五台山の竹林寺庭園を見てきました。あいくの雨でしたが、中国の盧山と鄱陽湖（はようこ）を模したといわれるこの庭園に心洗われる一刻を過ごしました。御句は花菖蒲のりんとした姿で、清新な一句に仕上がっています。日常とは別な場所に身を置くことが、心の凝りをほぐしてくれるようです。

独り居の狭庭を覆う緑かな 奥山貴司

夏は木々の美しい季節です。生命力の横溢（おういつ）したこの時期、いっそう一人の淋しさが身につまされることでしょう。簡潔ながら心に残る句になりそうです。

せせらぎはかみのかたりべわれもこう 松本 清

吾亦紅は9月末頃暗紅色の花を付けます。風や物音にも秋を感じる頃でありもの哀しい風情があります。ひらかな書きの優しさと柔らかな調べが快い一句です。

棕櫚の花みな下向きに鳥曇 青木静枝

昏れ残る海へ傾げる袋掛け 島野和枝

賢妻のきこへし城や鶏合 雅 吉子

ひろば

患者さんに感謝

外来看護婦

猪野 彰子



4月1日から外来で初めて仕事に就くようになって、未だになれないのは注射です。外来では、毎日たくさんの患者さんが注射をしに来られます。最初は本当にこわごわ患者さんに注射をしていました。もちろん失敗も多くて、1回失敗するたびに、他の看護婦さんに代わってもらおうとしていました。患者さんはみなさん優しく「もう1回してみいや。」と言って下さり、注射に不慣れな私に何回かさせて下さいます。最近「だいぶうまくなったな。」と声をかけて下さる患者さんもいて、嬉しく思っています。でも、注射がうまくなっていくのも、させて下さる患者さんがいるおかげです。だから「うまくなったな。」とお世辞にも声をかけて下さる患者さんに対して、感謝の言葉をかけるべきだったと思いました。新卒で未熟な私をご指導下さる婦長さんや主任さん、先輩方にもち

ろん感謝していますが、それも患者さんのご協力があってこそだと思います。私はいつもそれを忘れてはいけないと思います。

まだまだ不慣れで未熟な私ですが、患者さんのかけて下さるお言葉に対して、感謝の言葉をすぐに返せるような心構えを持っていたいと思います。そしてこれからも「患者さんがいてこそ」と素直に感謝できる看護婦でありたいと思います。

岡村病院に入って

看護学生

中越 寿合



3月に高知にやってきて早2か月がすぎました。慣れない環境での生活にずいぶん戸惑いました。病院での仕事は思っていたものと全く違い、仕事を覚えるのが一苦勞です。5月に入って少しずつ慣れてはきたものの、まだまだ勉強することがいっぱいで大変です。しかし、自分で選んで進んできた道だから頑張ったいと思っています。

最近は患者さんからも「学生さん」と言われ

仕事を頼まれることが多くなりました。私達学生ができることであれば笑顔で引き受けたいです。何事も『患者さん優先』だと思います。だからいそがしい時にでも気軽に声をかけて下さい。いつでもすぐに行ってお手伝いします。

「ここの病院の学生さんはやさしいね」と言われたことがあります。すごくうれしかったです。患者さんにそう言ってもらえるとますます「頑張らなくて」という気持ちがわいてきます。これからの2年間、この気持ちを忘れずに頑張っていこうと思っていますので、よろしくお願ひします。

岡村病院に来てから

看護学生

安東 由委



勤めはじめてもう2ヶ月もたってしまったなんてなんだか信じられません。いつも失敗の連続でたくさんの人に迷惑ばかりかけています。私は、岡村病院で働きはじめて一番思った事は、患者さんの暖かさです。お茶をかえるだけでも「ありがとう」といってくれます。学校から帰ってきたら「おかえり」といってくれます。そんな暖かい言葉をかけてもらうとすごく仕事がいそいそと頑張れます。

私はまだ学生です。看護の知識は全くありません。でも、病院で働いて学ぶことはたくさんあります。だから、私はこの道に進んでよかったと思いました。学校だけでは、学びきれないことがたくさんあると思ったからです。勉強と仕事との両立はすごく難しいと思うけれど、頑張っていこうと思います。そして病院で学んでいくこと一つ一つをきちんと頭に入れて、看護婦になったときに実践していけるように、今は今の仕事をきちんとこなせるように頑張ろうと思います。

◆地域振興券使えます

当院での診療費に地域振興券が使えます。
(平成11年3月21日より9月20日まで)

ホームページアドレス

<http://www.okamura-hp.or.jp>

メールアドレス

info@okamura-hp.or.jp

ニューフェイス紹介



島 博子さん
薬剤師
東京薬科大学薬学科卒
趣味 トールペイント
茶道

「退」職 ごくろうさまでした。

田淵 佐代さん(看護婦)



3階喫煙室について

3階の喫煙コーナーにつきましては、以前より、煙り、匂い、話し声等の苦情やお叱りを多数いただいておりますが、この度、新たに喫煙室を312号室と315号室の間に設置し、喫煙コーナーを廃止致しました。壁には防音ボードを貼り病室への影響を極力抑え、また強力換気扇で煙や匂いを屋外に排出できるようにいたしております。

ながらくご迷惑をお掛けしました事をお詫び申し上げますとともに、今後もよりよい入院生活を送っていただけますよう心がけてまいりますと考えております。

何かございましたら、ご意見箱、退院時のアンケートにてご意見、ご希望等をくださいます様お願い申し上げます。

第16回健康講座の報告

4月17日、岡村高雄院長が「心臓の危険信号」という演題で、スライドを用いて講演。そのあと、山本由紀子管理栄養士が「うす味でおいしく食べられる料理」について話しました。

(出席者 80人)

